ふぁみーゆプラス

2026.10
vol.9
JA筑紫





国消国産

日本で食べるものは、日本で作る。「国消国産」を一緒に考えよう！

日本の「食」は、さまざまなリスクに直面しています。食料の約6割を輸入に頼っている日本は、農家の減少や高齢化などの生産基盤の弱体化が大きな要因となり、食料自給率が低迷しています。また、国際情勢の変化や円安の影響で、肥料や燃料などの生産資材の価格が高騰し、農業の現場は大変厳しい状況が続いています。

必要な食料が不足しても、すぐに生産を拡大することはできません。消費者に、安全・安心な食料を安定してお届けするには、農業を持続可能なものにしていく必要があります。

そのためには、地域や国内で生産した農畜産物をもっと消費してもらうことが重要となります。たくさんの方にご理解いただき、そして、国産農畜産物を積極的に手に取っていただくため、JAでは「国」で「消」費する食べ物は、できるだけこの「国」で生「産」する、「国消国産」という考え方を提唱しました。毎日の「食」の安心はもちろん、子どもや孫たちの世代にまで、この日本という土地で豊かな実りが絶えず、美味しい食卓を囲む笑顔が絶えることのないように、「国消国産」は、日本の「食」のこれからにとって、大きな意義をもっています。

日本の「食」が直面している 5つのリスク

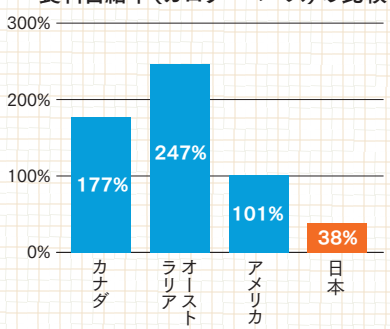
近年、多発している自然災害の影響や世界的な人口増加が
今後さらに拡大するとされ、日本の「食」は多くのリスクに直面しています。

リスク1 食料自給率の低迷

日本の食料自給率は、先進国の中でも**最低水準**です。日本は今、食料の**約6割**を輸入に頼っており、海外での災害や国際情勢の変化によって、食料供給が不安定になるリスクがあります。

出典：農林水産省HP（諸外国は2022年、日本は2024年の数字を使用）より







リスク2 農業者と農地の減少

2020年から2025年の5年間で、農業従事者は2割以上減少し、**約103.6万人**になりました。また、**約7割が65歳以上**で高齢化問題も深刻です。これに伴い耕作地も**約13.3万ha（1万ha＝10km×10km）減少**しており、将来的な生産力の低下につながる大きなリスクとなります。

リスク3 自然災害の多発

近年、豪雨や干ばつなどの異常気象が世界各地で多発しています。自然災害は農作物に影響を与えるだけでなく、被災国から食料を輸入している日本にとっても、食料不足につながるリスクとなります。



リスク4 世界的な人口増加

世界人口は年々増加し続けており、2010年から2050年までの40年間で、世界が必要とする食料は**約1.7倍**に増加するといわれています。

これまでは、品種改良や化学肥料の普及、農業の機械化などによって、単収を伸ばすことで農業生産の増加を可能としてきましたが、今後はさらなる食料の増産が必要とされ、食料供給の観点で大きなリスクを抱えることとなります。





リスク5 グローバル化による輸入依存

日本の農産物輸入は増加傾向にあり、2025年の輸入額は**約9.8兆円**に達しています。

近年は、生産資材価格や人件費の高騰により、海外の大規模農業に比較して国内生産のコストが高くなり、**“国内で生産するより輸入した方が安い”**という状況が生まれています。その結果、国内農家の経営が厳しくなり、輸入が増加し、食料自給率のさらなる低下につながっています。



日本の食と農、SDGsの実現のために「地産地消」「国消国産」を始めよう！

世界に SDGs

持続可能な開発目標

〈JA筑紫の取り組み〉

- 飢餓をゼロに ➡ 子ども食堂やフードバンクへの食材提供
- 働きがいも経済成長も ➡ 農業従事者への各種支援
- つくる責任つかう責任 ➡ フードロス削減
  農業生産における環境負担の軽減　など





日本で 国消国産

- 食料安全保障
- 食料自給率の向上
- 生産基盤の維持・拡大
- 次世代の担い手確保
- 多面的機能の維持・増進
- 環境負荷に配慮した農業
- ごはんを中心とした日本型の食生活

➡ 持続可能な地域農業・地域社会づくり

【私たちにできること】

➡ 国産農畜産物を選んで食べる

➡ お米をもっと食べる



地域で 地産地消

- 地域で生産
- 地域で消費
- 「食」や「農業」の理解
- 食料自給率の向上
- 地場産への愛着心や安心感

【私たちにできること】

➡ 農産物直売所を利用する



日本の食と農を未来につなぐ

地産地消をはじめ、食の安心をすすめて必要とし消費する食料の食を守るために、国応援していくことが重

国産農畜産物を消費することで、いくことが「**国消国産**」です。国民がはできるだけその国で生産し、日本産農畜産物をもっと食べて、農業を要です。





私たちが地域でできること

日本の食と農、SDGsのために、地域でできる取り組みが「**地産地消**」。その地域で生産された農畜産物を、その地域内で消費するという意味です。

例えば、農産物直売所を利用すれば、新鮮な地元の農畜産物に出会えるだけでなく、食材の長距離輸送に伴うCO_2の排出削減につながり、環境への負荷を減らせます。

10月16日は「国消国産の日」

国連食糧農業機関（FAO）が制定した「世界食料デー」に合わせ、JAグループは10月16日を「国消国産の日」に制定し、10・11月を「国消国産月間」と位置付けました。

JAグループでは、イベントや直売所、SNSなどを活用しながら「国消国産」をすすめ、持続可能な社会の実現を目指していきます。



©よい食P

JA筑紫では、消費者の皆さまへ安全で安心な国産農畜産物を
持続的・安定的に供給できる地域農業を支える取り組みを行っています。

農産物直売所「ゆめ畑」

地域で生産された農畜産物をその地域で消費するため、農産物直売所「ゆめ畑」を管内に5店舗展開しています。また、より多くの方々へ地域の農畜作物の魅力を知っていただくため、管内外の各種イベントにも出店しています。







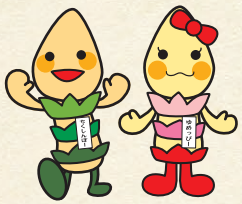
食　農　教　育

子どもたちへの農業体験や料理教室などを通じて、自然の恵みや食の大切さ、生産者への感謝の心を育んでいます。



JAグループそしてJA筑紫では、事業活動を通じて食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合であり続けます。そのために、「食」「農」「地域」と「JA」の取り組みについて、組合員だけでなく地域住民や消費者の皆さまに幅広い信頼と共感を得られるよう、国民理解の醸成をすすめてまいります。

皆さまもJAグループとともに農業を応援し、
「食」の安心を未来につなげていくため、
「国消国産」をいっしょに進めていきましょう！



なぜ国消国産が必要なのか？

なぜ日本はアメリカやオーストラリアのような
大規模農業で食料自給率を上げられないの？

アメリカやオーストラリアでは、広大で平らな農地を生かして、大きな機械を使った大規模な農業が行われているけど、日本は山が多くて起伏の激しい中山間地域が国土の約7割を占めているから、広く平らな農地を作ることが難しいんだよ。
でも日本では、山からの豊富で良質な水資源を生かした農業を展開しているよ。

なぜ日本の農業を守ることが大切なの？

日本の農業には、食べ物を作る以外にも、私たちの暮らしや自然を守る「農業の多面的機能」という役割があるんだよ。
田畑に雨水をためて川の急な増水や土砂崩れを防いだり、都市部の農地は気温の上昇を抑えたり、災害時には防災空間になるよ。
さらに、農地は多くの生き物のすみかとなり、美しい景観をつくって自然環境を守っているんだよ。

だから「国」で「消」費する食べ物は、
できるだけこの「国」で生「産」するという
「国消国産」が大切なんだね！

JA筑紫
ふぁみーゆ
2026.10 vol.9
●2026年10月発行 ●発行／JA筑紫
〒818-8642 福岡県筑紫野市杉塚三丁目3番10号 編集・企画管理部企画広報課 TEL(092)924-1373



組合員・地域とともに

JA筑紫

〒818-8642 福岡県筑紫野市杉塚三丁目3-10
TEL：092-924-1311（代表）
管内：大野城市・太宰府市・筑紫野市・春日市・那珂川市

JA筑紫 公式ホームページ

過去の広報誌や
店舗・ATM詳細、
貯金・共済・融資など
最新情報を更新中

JA筑紫 公式インスタグラム

旬の農産物を使った
レシピやイベント情報、
JA筑紫の活動などを
更新中

JACHIKUSHI

JA筑紫 農産物直売所「ゆめ畑」公式LINE



イベント情報やおすすめ商品、割引情報などお得な情報を配信中！

大野城店	太宰府店	筑紫野店	春日店	那珂川店
[ID] @376uhsqc	[ID] @291vivxr	[ID] @593hsuil	[ID] @649drelk	[ID] @097lafql